

通信の未来をつくる若手研究者のための論文特集の発行にあたって

通信の未来をつくる若手研究者のための論文特集編集委員会

委員長 塩川 茂樹



若手に限らず全ての研究者にとって論文を書くことの意義とは何であろうか。電子情報通信学会は、たがいに情報交換などを行うことで電子情報通信分野の学問をすすめていく場と概要に記されている。この情報媒体の一つが論文であり、論文誌は多くの有益な情報を交換する場である。従って学会発展のため、ひいては研究者自身のためにも積極的に論文投稿して頂きたいのだが、残念なことに論文誌への投稿数は年々減少しているのが現状である。

通信分野の技術進歩は目覚しく常に変化が求められるなかで、今後の更なる発展のためには若手研究者の力が不可欠である。彼らには大いに成長し活躍してもらいたいものだが、優れた研究成果を挙げながら、論文執筆の機会を逃している若手研究者も多くいることと思う。これは本人の成長にとっても学会の発展にとっても大きな損失である。

若手研究者のための特集は、2012年度より和文論文誌編集委員会が企画しており、今年度は通信の未来を作るという名のもと、7回目の特集となる。今回もこれまで同様、特集テーマとして技術分野を絞ることなく広く通信技術全般を対象とし、筆頭著者がおおむね40歳以下の若手研究者・学生となる論文を募集した。

本特集に投稿された論文数は論文9編、レター1編であり、厳正なる審査の結果、最終的に論文6編、レター1編を採録とした。また採録された論文のうち1件を論文賞として表彰することとした。

最後に、本特集の発行にあたり、御投稿頂いた著者の方々、論文査読に御尽力頂いた査読委員の方々、ならびに事務局の方々に深く感謝する。判定にあたっては、公正な採否の判断は当然であるが、通知文の作成にも注意を払った。特に編集委員の皆様には、条件付採録或不採録についてのコメントを若手研究者にとって今後の糧となるよう心がけて作成して頂いた。ここに改めて感謝する次第である。本特集をきっかけとして若手研究者に大きくステップアップしてもらえれば幸いである。そして今後のますますの投稿を期待する。

しおかわしげき
塩川茂樹（正員：シニア会員） 平10慶大大学院博士後期課程修了。同年名工大・電気情報工学科助手。平13年神奈川工科大・情報ネットワーク工学科助手、助教授を経て教授。現在に至る。無線マルチホップネットワークの研究に従事。博士（工学）。平8本会交換システム研究会優秀論文賞受賞。平12電気通信普及財団テレコムシステム技術学生賞受賞。平20・平26・平28本会通信ソサエティ活動功労賞受賞。

通信の未来をつくる若手研究者のための論文特集編集委員会

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 委員 | 長 | 塩 | 川 | 茂 | 樹 | 平 | 明 | 徳 | 内 | 田 | 大 | 輔 | ・ | 鬼 | 沢 | 武 |
| 副 | 長 | 笹 | 森 | 崇 | 行 | 伊 | 嘉 | 浩 | ・ | 藤 | 輝 | 被 | ・ | 肖 | 村 | 超 |
| 委 | 員 | 有 | 馬 | 卓 | 司 | 坂 | 文 | 泰 | ・ | 井 | 陽 | 祐 | ・ | 谷 | 澤 | 仁 |
| | | 木 | 寺 | 正 | 平 | 武 | 茂 | 樹 | ・ | 田 | 正 | 進 | ・ | 中 | 破 | 仁 |
| | | 鈴 | 木 | 一 | 哉 | 富 | 悠 | 繁 | ・ | 里 | 浩 | 満 | ・ | 不 | 田 | 泰 |
| | | 富 | 木 | 淳 | 史 | 廣 | 尚 | 介 | ・ | 田 | 正 | 輔 | ・ | 山 | | 涉 |
| | | 久 | 永 | 光 | 司 | 道 | | 文 | ・ | 下 | 浩 | | | | | |
| | | 三 | 上 | 庸 | 学 | | | | | | | | | | | |
| | | 山 | 登 | | 次 | | | | | | | | | | | |